

極域データサイエンスに関する研究集会 IV

○日時：2026年3月18日（水）10時35分～17時55分

○会場：情報・システム研究機構 データサイエンス棟 1F（大会議室 H108）（Zoom ハイブリッド）

○主催：データサイエンス共同利用基盤施設 極域環境データサイエンスセンター

○世話人：奥野淳一・金尾政紀

○趣旨：本集会では、近年のオープンサイエンスに関する国内外の状況を踏まえ、極域の多様なデータセットを用いたデータサイエンスに関する最近の現状について情報交換を、過去2回の同研究集会の継続として行う。特に「AI」や「機械学習」など、先端的なデータサイエンス手法を用いた研究の最前線の話題提供を募る。合わせて、その研究推進のための基盤となるデータシステム、データ公開手法、データ共有・データ出版、データジャーナル等、さらにはデータの長期保全・公開に関する現状や将来計画について議論する。また、関連大学・機関によるデータサイエンス教育の実践例、等を含めた多方面の話題についても情報交換を行い、極域データサイエンスの今後の方向性について議論する。

○話題提供：

【3月18日】

10:35-10:40 門倉昭（PEDSC・センター長）「開会挨拶」

10:40-11:00 優乙石（前橋工大）・杉本憲彦（慶應大）・富川喜弘（極地研）「VRを活用した災害気象データの体感システムの開発」（オンライン）

11:00-11:20 田村亨（産総研）「相対海面上昇データベースの構築」（オンライン）

11:20-11:40 池原実（高知大）「南極堆積物コアの統合データベースの構築・公開と活用策の検討」（オンライン）

11:40-12:00 中村和樹・佐竹祐里奈（日大）ほか「衛星間マイクロ波高度計による白瀬氷河と茅氷河の氷厚推定」（オンライン）

（昼食休憩：60分）

13:00-13:20 板木拓也（産総研）「産総研地質領域における「砂つぶ」自動分類の取り組み」

13:20-13:40 楠城一嘉（静岡県立大）「静岡県北部の南アルプスの地殻活動に関するデータベース構築へ向けた研究」

13:40-14:00 西川泰弘（大阪教育大）「惑星・氷衛星の地震観測・データ利活用に向けた極域氷震研究集会」

14:00-14:20 鈴木香寿恵（明治大）・角谷啓太・鈴木秀彦「雪結晶画像自動撮影システムの構築と観測報告」（オンライン）

14:20-14:40 石井智士（立教大）・富川喜弘・田中良昌（極地研）「全天画像から雲の時空間分布を作成するシステムの開発：近赤外線カメラを用いた自動雲量推定手法の構築」

14:40-15:00 杉浦幸之助（富山大）・平沢尚彦（極地研）「南極 AWS 観測の積雪深データによる堆積過程の総観規模的描像の抽出」（オンライン）

（休憩：15分）

15:15-15:45 中田裕之（千葉大）ほか「中間圏・熱圏・電離圏（MTI）研究集会 報告」
阿部修司（九州大）ほか「研究集会「太陽地球系物理学分野のデータ解析手法、ツールの理解と応用」の報告」（オンライン）

15:45-16:05 齊藤昭則・香川大輔（京都大）ほか「南極昭和基地大型大気レーダーによる電離圏沿磁力線不規則構造の観測」（オンライン）

16:05-16:25 櫻井敬久（山形大）ほか「大気中宇宙線生成核種 Be-7 の観測データセットと時間変動について」（オンライン）

16:25-16:45 大嶋晃敏（中部大）「高エネルギー宇宙天気研究とデータサイエンス」（オンライン）

16:45-17:05 小財正義（PEDSC）「統合データベース AMIDER と関連する取り組み」

17:05-17:25 新堀淳樹（名大）ほか「研究データの可視化・検索向上を目指したメタデータ変換と機関リポジトリへの登録」

17:25-17:45 張麒・小財正義・金尾政紀・門倉昭（PEDSC）「異分野研究データの共有と統合を支える AI 時代の基盤構築」

17:45-17:55 金尾政紀（PEDSC）「極域データの国際連携：最近の話題」＋「閉会挨拶」

18:00-19:45 懇親会

○参考情報

・過年度の研究集会のプログラム集へのリンク（<http://pedsc.rois.ac.jp/ja/achievement#meeting>）